



令和7年3月19日

南陽市議会議長 遠藤榮吉 殿

無会派 島津 善衛門

令和6年度会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項 目	調査・研修内容
調査期日	令和6年11月12日(火)から14日(木)まで 2泊3日
調査場所	鹿児島県 南九州市、鹿屋市、垂水市、
調査目的	① 知覧特攻平和会館の想い ② 鹿屋航空基地史料館・平和教育の在り方 ③ たるみず元気プロジェクトの取り組み
調査概要	① 知覧特攻平和会館の想い 知覧特攻平和会館は、鹿児島県南九州市の特攻基地跡の一角に建設された施設で、第二次世界大戦末期の沖縄戦における特攻作戦に関連する遺品や資料を展示しており、特攻隊員が使用した物品や、彼らの手紙、写真などを通じて、当時の状況や彼らの思いを知ることができる。 特攻作戦には、知覧基地を始め、宮崎県の都城など九州の各地、そして当時日本が統治していた台湾など多くの基地から出撃しているが、知覧基地が本土最南端だったということもあり、最も多く、全特攻戦死者 1,036 名のうち、439 名（中継基地となった徳之島・喜界島を含む）、全員の半数近くが知覧基地から出撃しており、戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶ場として、修学旅行や卒業旅行などで、多くの人々に訪れられている。 語り部の方の話に涙した。 真の世界平和を実現するには… 私たち議員ができることは… ② 鹿屋航空基地史料館と「平和へのメッセージ」 鹿屋市には、太平洋戦争時に 3 つの飛行場が存在し、日本で最も多くの特攻隊が出撃した歴史がある。鹿屋海軍航空基地からは 908 名、串良海軍航空基地からは 363 名の特攻隊員が出撃し、その尊い命を失った。 鹿屋航空基地史料館では、旧海軍創設期から先の大戦、現在の海上自衛隊の活動に至るまでの貴重な資料が展示されており、戦争遺産の継承に力

	を入れている。 世界平和を願う児童・生徒の「平和へのメッセージ」を鹿屋から世界に向けて発信し、その思いを届け、多くの人に平和や人権について考える機会を提供するという趣旨のもと、平成 26 年度から『平和の花束』事業として、①「平和へのメッセージ」の募集、②「平和の花束」セレモニーの開催、③本人の朗読によるラジオ放送、などに取り組んでおり、平和教育の在り方の一端を学べた。 ③ たるみず元気プロジェクト 垂水市では、平成 29 年度から、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科心臓血管・高血圧内科学分野の大石充教授を「垂水市スーパーバイザー」に委嘱し、「健康長寿・子育て支援」に関する課題解決の取組を進めている。 垂水市が抱える少子高齢化の課題は、日本全国共通の課題、大学側からはデータ分析に基づいた最適なアプローチを提案でき、介護費用等の適正化が期待でき、行政と医療が一体となって「健康長寿・子育て支援の新しいモデルケースの構築」を進めている。 行政や医療を始めとする様々な専門家（多職種）が力を合わせて、みんなで楽しく健康寿命を延ばすことができる元気なまちを作り上げるためのモデルケースとなるか注目したい。 意義 40 歳以上の垂水市民（参加無料）を対象に長期間の観察研究を行い、加齢に伴う生活機能・身体状況及び認知機能が生命・機能予後にどのように関係しているか調査することは、近い将来、日本が迎える空前の高齢化社会に対応する道筋ができ、疾病予防や生命予後の改善による医療の発展だけでなく、寝たきりの予防など、介護必要度が軽減し、最終的に医療費の削減に寄与するものと考ええる。 また参加者（市民）には、健康チェック後に開催する「健康チェック報告会」にも参加いただくことで、医師や歯科医師、理学療法士、管理栄養士等から結果表の見方や説明を受け、自身の「健康状態の把握」に加え、「検査内容の理解」や「健康長寿に関する知識」を深めることで、「健康リテラシー（健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力のこと）の向上」に繋がり、健康増進・健康長寿の延伸を図れると考えられる。
その他	